

■滝廉太郎 作曲家。わずか2年の間に、近代日本を代表する名曲を次々と創作、ドイツ留学もかなわず夭折した。

たきれんたろう

琉球処分・・1879＝ 東京市芝区南佐久間町で長男に生まれる。

明治14年政変1881＝ 2歳：

父の転勤により神奈川、富山、東京を転々としつつ、多感な少年期を過ごし、

初の対等条約1888＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝10歳：

大分県で高等小学校を卒業後、上京して塾に入り唱歌を修業。

日清戦争始・1894＝15歳： 東京音楽学校に入学し、小山作之助、幸田延らに師事。

研究科をへて同校嘱託となり後輩の指導にあたる。彼はテノールの美声に恵まれ、ピアノ演奏にすぐれ、クラリネット奏法も心得ていた。

八幡製鉄始・1897＝18歳：

ピアノ国産化・1900＝21歳： *代表作「四季」(武島羽衣作詞「花」を含む)、「箱根八里」(烏井忱作詞)、「荒城の月」(土井晩翠作詞、のちにピアノ伴奏部を山田耕作が作曲)、「メヌエット」(ピアノ曲)は、この前後2年間に集中。

田中正造直訴1901＝22歳： *「幼稚園唱歌」は東くめ作詞によるものが多い。ドイツ留学の途に就き、ライプチヒ音楽院に入学したが、

教科書疑獄・1902＝23歳： 胸の病を得て帰国。大分県竹田町の実家で療養するも、

日比谷公園・1903＝24歳： 没した。